

授業科目名	体育	教員名	日高 正博	免許・資格との関係	小学校教諭	選択必修
					幼稚園教諭	選択必修
授業形態	演習	担当形態	単独		保育士	
					こども音楽療育士	
科目番号	KY0106	配当年次	1年前期	卒業要件	小幼コース	選択必修
単位数	2単位				幼保コース	選択必修
科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目（幼稚園） 教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）					
施行規則に定める科目区分又は事項等	領域に関する専門的事項（幼稚園） 教科に関する専門的事項（小学校） ・体育					
一般目標	小学校体育科で扱う運動および保健に関する技能や知識を獲得する。					
到達目標	(1)実技、講義を通して、小学校学習指導要領体育科の領域における、体育、健康に関する基礎的知識や技術を獲得する。 (2)小学校体育科授業における運動学習時の安全指導に関する知識を獲得する。					
授業の概要	小学校における運動領域の内容について、実践を通して理解を深めていく。具体的には、小学校学習指導要領に示された各種目の特性と運動の構造を理解し、基本的技術を実践を通して身につけ、指導者としての技能を高める。また、健康増進および体力の向上に関する基本的な知識についても学習する。さらに、身体活動の場における事故やけがの防止や援助・指導の工夫などについても学ぶ。保健領域についても指導要領に示された内容に関する基礎的知識について学ぶ。 アクティブラーニングとして、振り返り、レポートなどを取り入れる。					
ディプロマ・ポリシーとの関係	本講義は、教育学部のディプロマ・ポリシーに掲げる「5.教育実践力を身につけている。」「6.教科・教職に関する基礎的・応用的知識を身につけている。」を育成する科目として配置している。					
履修条件・注意事項	運動のできる服装、シューズを準備すること					
授業計画	<p>第1回：オリエンテーション・体育授業における技術・保健領域〈講義・実技〉（体育館） 本授業の全体像を捉えるとともに、体育科授業の中核的教育内容である「技術」について概念と具体的内実を講義するとともに、体を動かしながら確認する。（目標(1)-1), (3), (4)） また、保健領域について、基礎的知識について講義する。（目標(1)-2), (2)-2)）</p> <p>第2回：体ほぐし運動・体づくり運動（1）〈実技〉（体育館） 体ほぐし運動について具体的な運動を行いながら、本領域の目的等について理解する。また、体づくり運動についてリズムカルな運動の実践を通して、具体的な運動の方法と工夫のためのポイントを理解する。（目標(1)-2), (2)-2)）</p> <p>第3回：体づくり運動（2）〈実技〉（体育館） 用具を操作する運動（短縄跳び、長縄跳び）の実践を通して、具体的な運動の方法と工夫のためのポイントを理解する。（目標(1)-2), (2)-2)）</p> <p>第4回：体づくり運動（3）〈実技〉（体育館） 用具を操作する運動（ボール）の実践を通して、具体的な運動の方法と工夫のためのポイントを理解する。（目標(1)-2), (2)-2)）</p> <p>第5回：陸上運動（1）〈実技〉（体育館） 走運動（かけっこ、短距離走・リレー、ハードル走）の実践を通して、技術構造に関する理解や技術習得のための方法を獲得するとともに、指導者としての技能を高める。（目標(1)-2), (2)-2)）</p> <p>第6回：陸上運動（2）〈実技〉（体育館） 跳ぶ運動（幅跳び、高跳び）の実践を通して、技術構造に関する理解や技術習得のための方法を獲得するとともに、指導者としての技能を高める。（目標(1)-2), (2)-2)）</p> <p>第7回：器械運動（1）〈実技〉（体育館）</p>					

	<p>マットを使った運動の実践を通して、技術構造に関する理解や技術習得のための方法を獲得するとともに、指導者としての技能を高める。(目標(1)-2), (2)-2))</p> <p>第8回：器械運動(2)〈実技〉(体育館)</p> <p>前回に引き続きマットを使った運動の実践を通して、技術構造に関する理解や技術習得のための方法を獲得するとともに、指導者としての技能を高める。(目標(1)-2), (2)-2))</p> <p>第9回：器械運動(3)〈実技〉(体育館)</p> <p>固定施設、鉄棒、跳び箱を使った運動の実践を通して、技術構造に関する理解や技術習得のための方法を獲得するとともに、指導者としての技能を高める。(目標(1)-2), (2)-2))</p> <p>第10回：実技習得状況の確認〈実技〉(体育館)</p> <p>これまでの授業で取り上げた技術の獲得の程度を確認する。(目標(1)-1), 2), 3), 4), (2)-2))</p> <p>第11回：ボール運動(1)〈実技〉(体育館)</p> <p>ボールゲームの基礎となる、各種のボールを投げる・捕る運動の基礎的技能を習得するとともにベースボール型ボールゲームに関する知識やゲームの構造について理解し、ゲームを楽しむことができる。(目標(1)-2), (2)-2))</p> <p>第12回：ボール運動(2)〈実技〉(体育館)</p> <p>ネット型ボールゲーム(バレーボール、バドミントン)に関する知識やゲームの構造について理解するとともに、基礎的技能を身に付け、ゲームを楽しむことができる。(目標(1)-2), (2)-2))</p> <p>第13回：ボール運動(3)〈実技〉(体育館)</p> <p>ゴール型ボールゲーム(バスケットボール、サッカー)に関する知識やゲームの構造について理解するとともに、基礎的技能を身に付け、ゲームを楽しむことができる。(目標(1)-2), (2)-2))</p> <p>第14回：表現運動〈実技〉(体育館)</p> <p>表現リズム遊び(表現遊び、リズム遊び)表現、リズムダンス、フォークダンスに関する知識や基礎的技能と練習方法を獲得する。(目標(1)-2), (2)-2))</p> <p>第15回：模擬授業(体育館)</p> <p>指導案(略案)を作成し、模擬授業を体験する。(目標(1)-2), 3), (2)-1), 2), 3), 4))</p> <p>定期試験：試験期間中に実施</p>
<p>学生に対する 評価</p>	<p>実技試験60%、定期試験(知識・理解)40%で評価する。60%以上を合格とする。 なお、レポート・答案等の提出物へのフィードバックについては、以下の方法等による。 ・コメントを記載して返却する。 ・授業またはオフィスアワーに、口頭で行う。</p>
<p>時間外の学習 について</p>	<p>(事前・事後学習として週4時間以上行うこと。)</p> <p>事前学習：授業の最後に次回学習の内容を確認するので、それに応じて学習指導要領解説書等に目を通し、予備知識や疑問点を持って学習に参加できるようにする。 事後学習：未習得の技術については、各自練習をしておくこと。また、関心を持ったことや疑問点については、発展的に調べておくことが望ましい。</p>
<p>テキスト</p>	<p>『小学校学習指導要領(平成29年告示)』 『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 体育編』</p>
<p>参考書・ 参考資料等</p>	<p>『幼稚園教育要領(平成29年告示)』 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年告示)』 『保育所保育指針(平成29年告示)』 作成した資料および学習プリントを配布する。</p>
<p>担当者からの メッセージ</p>	<p>実技が中心の授業である。指導者としての実技能力を高めようとする過程で、その技術の構造を理解するとともに、動きを獲得するうえで必要なコツやカンといったもの、さらには子どもたちがつまずいてしまう点等にも気づいてほしい。</p>
<p>オフィスアワー</p>	<p>・授業の前後の時間 ・メールでの連絡でもよい。</p>